



# 愛隣幼稚園..... 園だより ..... 12. 8月号

## 子どもたちの未来のために

7月にお誕生日を迎えた子どもたちのカードに次の聖句を書きました。(書いた言葉は少し違いますが)  
『平和を実現する人々は、さいわいである、その人たちは神の子と呼ばれる』

(マタイによる福音書5章9節)

今日も世界のどこかで戦火のもと、怯えて過ごす子どもたちがいます。今、私たちの国は幸いなことに紛争のただ中にはありません。そう考えれば私たちは『平和』のうちに日々を過ごしていると、言うことができるのでしょ。それでも、少し目を転じれば東北の被災地にも、福島原発事故による被災地にも、『平和』と呼べる日常は戻っていません。特に福島の放射能に汚染されてしまった大地は、そこに生活していた人々の日常を一変させてしまっただけでなく、日常が戻る目途すらたらずに、今日もまた時間だけが過ぎていきます。その光景を私たちはほとんど目にするのがなくなりました。昨年の今頃は、もっともっとメディアはこの事を取り上げ、映像を配信していました。しかし1年が過ぎ、それはニュースとしては魅力のないものになってしまったのでしょ。私たちは、あの不気味な静寂に包まれた町や、村、田畑や森、海の光景を目にするのはなくなりました。記憶は薄れ、何事もなかったかのような日常を千葉に住む私たちは過ごしています。あれほど身近に感じた放射能の汚染・被曝の恐怖も、すでにリアリティのないものになってしまいました。私たちは『平和』な日々を過ごしています。何故こんなにも鈍感になれるのでしょ。こんなに楽観的でいられるのでしょ。何も解決していない。それどころかまた、同じことは繰り返されようとしています。リアリティがないのです。私の痛みではないのです。

千葉市の面積	272.08 km <sup>2</sup>	浪江町の面積	223.10 km <sup>2</sup>
		双葉町の面積	51.40 km <sup>2</sup>

ちょっと調べてみました。福島原発に近く今もゴーストタウンとなっている二つの町の面積(警戒区域の一部でしかありませんが)を足すと、ちょうど千葉市全域の面積でした。ここから何を想像し何を思うのでしょか。見ないことにしているけれど今もある“ゴーストタウン”という現実が、ほんの少しでもリアルに感じられたらと思います。もし、千葉の湾岸地域であの原発事故が起こっていれば、私たちの今いるこの土地は人っ子一人住むことの出来ないゴーストタウンになり、それは今も続き、いつまで続くのかもわからず元の大地に戻ることが出来るのかもわからない・・・にもかかわらず、その受け入れがたい現実を造りだす原因となった施設は放置することも出来ず、多大な労力と時間、多額の資金を費やして安全な状態に戻さなければならないのです。どうでしょ、不気味な静寂が映し出す現実が身近なものになったのでしょか。

冒頭の聖句に「平和を実現する人」という言葉があります。この言葉の背後には『平和』は黙って待っていて当たり前と与えられるものではないという言葉が隠されています。『平和』は実現させるもの、創り出すものなのです。私たち大人には『平和』を実現させる責任があります。今も、将来に亘ってもです。それは私たちが愛しみ私たちの命を懸けても守りたいと思うこともたちの未来がそこにあるからです。私たちはリアルに想像しなければならぬと思います。この『平和』は恒久的なものなのか、今だけのものなのか。私が望んでいるものは、この子らが希望を持てる未来です。大地の恵みに感謝して人も動植物も生き生きと生かされて暮らすことのできる、日本であり、世界であってほしいのです。そして絶対にあってはならないのは、私たちの過ちの代償を子どもたちが背負い続ける未来です。ですから、今あっても見えない現実、まだ見えないけれど未来に起こり得ることを私たちはリアルに想像し、『平和』を実現する者でありたいと思います。